

道の駅展示（観光案内）

三俣（みつまた）はかつて宿場町として栄え、大名や幕府役人、商人、平民などが、江戸時代（1603～1868）に江戸（えど）（現在の東京）と日本海（にほんかい）を結んでいた三国（みくに）街道を旅する際に滞在した場所である。

荒戸（あらと）城跡

この山城跡の起源は御館（おたて）の乱（1578～1579）にさかのぼる。御館の乱とは、大名・上杉謙信（うえすぎけんしん）（1530～1578）の2人の養子が越後（えちご）領主としての跡目をめぐって起こした戦いである。

八木沢（やぎさわ）観音堂

慈悲の菩薩である観音が祀られたこのお堂は、1809年に八木沢集落を壊滅させた大火を免れた建物である。観音は安産と幸運をもたらすと信じられている。

雪災記念碑

1918年1月9日、三俣（みつまた）は大規模な雪崩に見舞われ、これにより158名が死亡、28戸の家屋が倒壊した。石碑は翌1919年にこの場所に建立された。

百庚申

これらの石塔は、庚申（中国の道教を起源とする民間信仰）の信奉者によって建てられたものである。庚申とは、三尸（さんし）が体から抜け出して天の王宮に自分の罪を報告しにいかないように、信者たちが不眠を貫く日のことを指す。

伊米（いめ）神社

この神社は10世紀以前に建てられたと考えられている。主祭神は、食物の神である保食神（うけもちのみこと）。米の豊作を祈って、毎年7月12日に三俣（みつまた）祭りが開催される。

三国街道脇本陣跡 池田家（いけだや）

この伝統ある宿は脇本陣として1828年前に創業した。脇本陣とは、大名が三国街道を通過して江戸との間を往来する際に泊まる予備の大名宿舎のことである。1680年代建造のこの建物は、大名宿舎としては三国街道に唯一現存するものである。

清津川（きよつがわ）

清流・清津川は三俣（みつまた）を通過して信濃川（しなのがわ）に合流し、日本海（にほんかい）まで注いでいる。その清らかさは、イワナや、梅花藻（ばいかも）と呼ばれる水生顕花植物が見られることから分かる。